

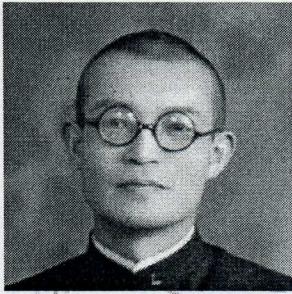
—太宰治「散華」の詩人— 三田循司資料特別公開

太宰治の短編小説「散華」に実名で登場する三田循司。詩人として将来を嘱望されながら、26歳の若きで「アツツ島玉碎」を遂げた三田の遺品が、太宰生誕百年の今年、三田の故郷花巻で発見されました。太宰が三田に宛てたはがき5通をはじめとする、これらの遺品の一部を初公開するとともに、三田循司詩抄と太宰の「散華」を収録した冊子を刊行します。

私は「死んで下さい」とためらはず自然に言つてくれたのは、三田君ひとりである。なかなか言へない言葉である。こんなに自然な調子で、それ言へるとは、三田君もつひに一流の詩人の資格を得たと思つた。

御元氣ですか。
遠い空から御伺ひします。
無事、任地に着きました。
大いなる文學のために、
死んで下さい。
自分も死にます、
この戦争のために。

太宰治「散華」より



平成21年10月1日(木)～11月30日(月) 入場無料

日本現代詩歌文学館 展示室特設コーナー
>21年度常設展「食卓と詩歌」開催中

撮影渡辺好章

